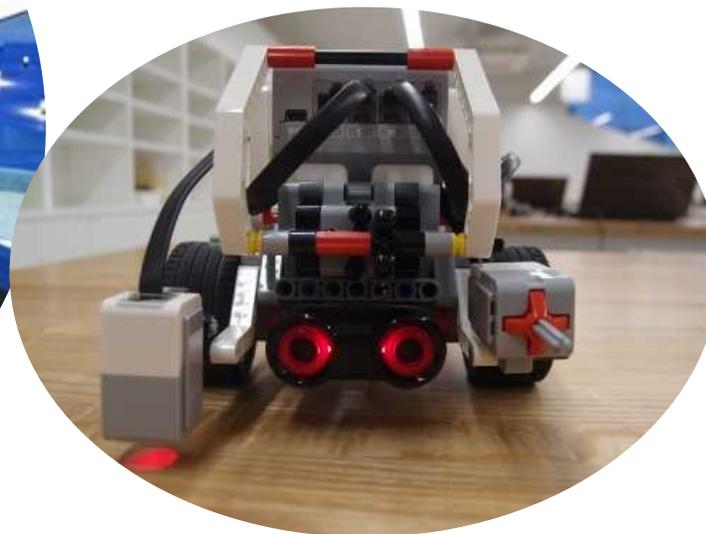


平成29年12月25日

小松市総合教育会議



情報教育とICTの活用 これからのプログラミング教育

小松市教育委員会 学校教育課

情報教育



情報活用能
力の育成

情報手段
の主体的
活用

情報モラ
ルの充実



教科指導におけるICT機器の活用

⇒ わかりやすい授業の実現

児童生徒(例)

- ・タブレットによる動画、写真での交流
- ・実験、観察の記録
- ・プレゼン等による多様な自己表現

教員(例)

- ・デジタル教材等の活用
- ・支援を必要とする生徒への視覚的支援

教科の学習目標の達成

⇒ 確かな学力の育成

知識の定着, 技能の習熟(例)

- ・計算、漢字アプリの活用
- ・授業の黒板やノートの記録を見ることでの復習など

現在のプログラミング教育



簡単なプログラムの作成
10時間前後

● 中学校

技術科で必修

● 小学校
教育課程に
位置づけられていない

● 高校

情報の科学で必修

実際の問題解決に
コンピュータを活用

小学校のプログラミング教育

平成32年より新学習指導要領にて完全実施

プログラミング体験
(※プログラマーの育成が目的ではない)

「プログラミング的思考」を身に付ける

「論理的に考えていく力」

身近な生活でコンピュータが活用されていることや、
問題の解決には必要な手順があることに気付く

小松市のプログラミング教育

教育委員会で教材を作成
課題解決の手順を理解

+

サイエンスヒルズで
レゴプログラミングを体験

プログラミング体験から教科への広がり

(教育課程全体を見渡し、算数、理科等で)

「論理的に考えていく力」

身近な生活でコンピュータが活用されていることや、
問題の解決には必要な手順があることに気付く

平成30年 推進協力校で試行(10校)

- ・年間5時間程度(4~6年 総合的な学習の時間)
- ・ユニット教材の学習
- ・サイエンスヒルズでのレゴプログラミングの体験+α



教材の改善
効果の検証

平成31年 市内全小学校で試行



平成32年より新学習指導要領にて完全実施

プログラミング教育の推進



- ・教員
- ・サイエンスヒルズ職員
- ・(仮)サイエンスサポーター(大学生ボランティア)



小松市総合教育会議

児童生徒の状況について

平成29年12月25日(月)
小松市教育委員会 学校教育課

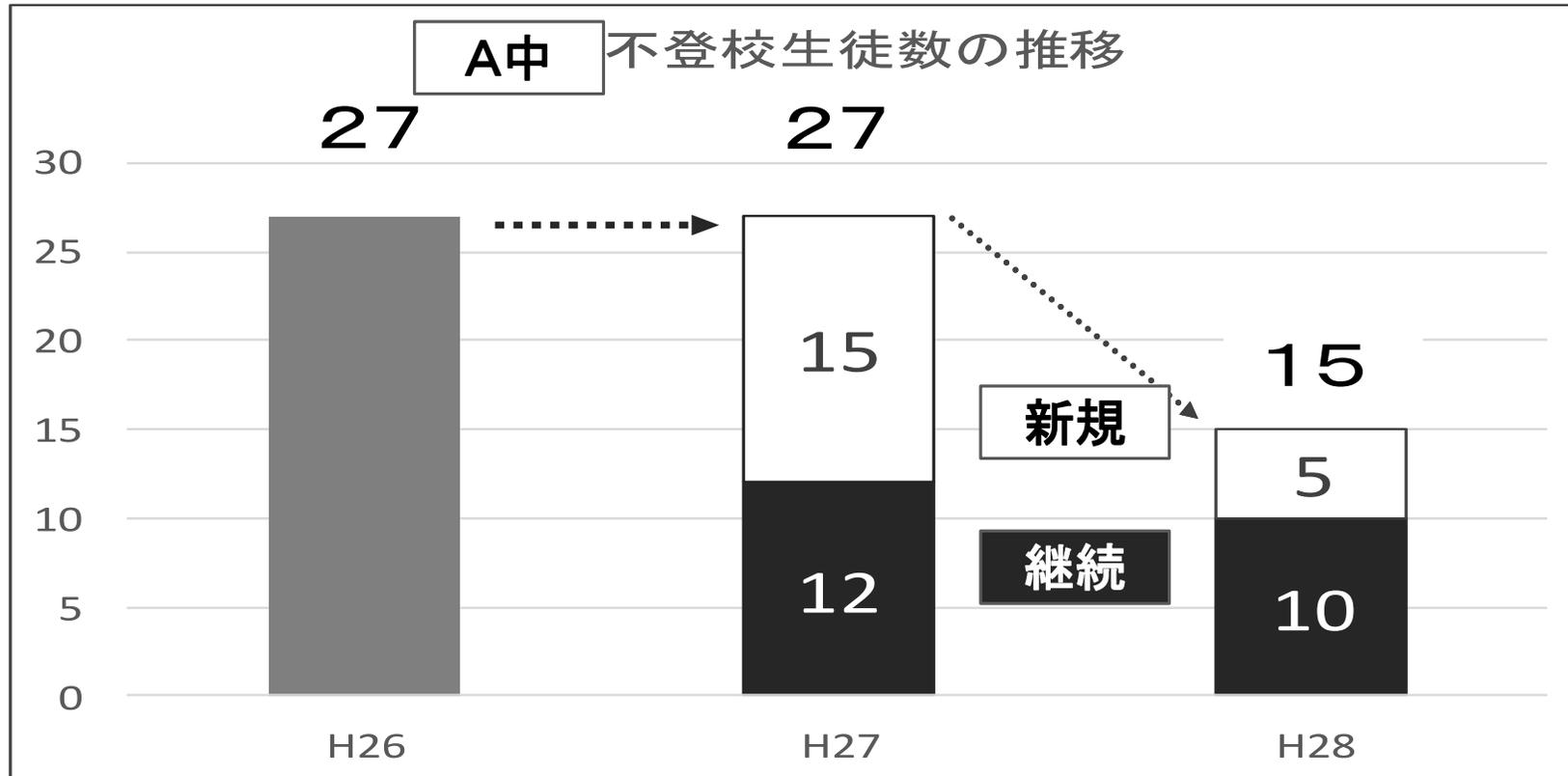


生徒が活躍する場の設定

- 中学生サミット【10.14(土)】
 - ・3回目、代表生徒40名が実行委員として参加
 - ・1月の近畿大会にて、小松市の取組を発表予定
- 加賀地区中学生意見発表大会【8.19(土)】
 - ・最優秀賞、優秀賞を受賞
- ビブリオバトル【11.26(日)】
 - ・中学生、高校生→小学生へ
- 中学校部活動表彰
【Big Growth Award】



中学校の取組



- ◆自治活動の推進 → 自己有用感の醸成
- ◆教育相談体制の充実 → 生徒の安心感

	H28	H29
4月	200	209
5月	356	305
6月	314	257
7月	196	214
合計	1136	1043

8.3%減

H29年度 月曜日の欠席者数(中学校)

	H28	H29
4月	100	70
5月	184	155
6月	132	153
7月	69	77
合計	485	455

6%減

H29年度 月曜日の保健室来室者数(中学校)

小学 ＜児童＞

■B小

- ・毎週水
- ・昼休み
教師が
プなど
児童が
緒に過



年度				健康室登校
H28				4
H29	474	0 (12月現在)	1 (12月現在)	H29 401 0 (12月現在) 0 (12月現在)

児童、教員の感想

みんなとなかよくなれたし
せんせいともなかよくなれ
てよかったです。(1年)

楽しいから待ちどおし
いです。学校は勉強
するところだけど、こ
んな時間があつていい
と思います。(2年)



普段見られない子ども
の姿や人間関係が
あって、児童理解に
がる。

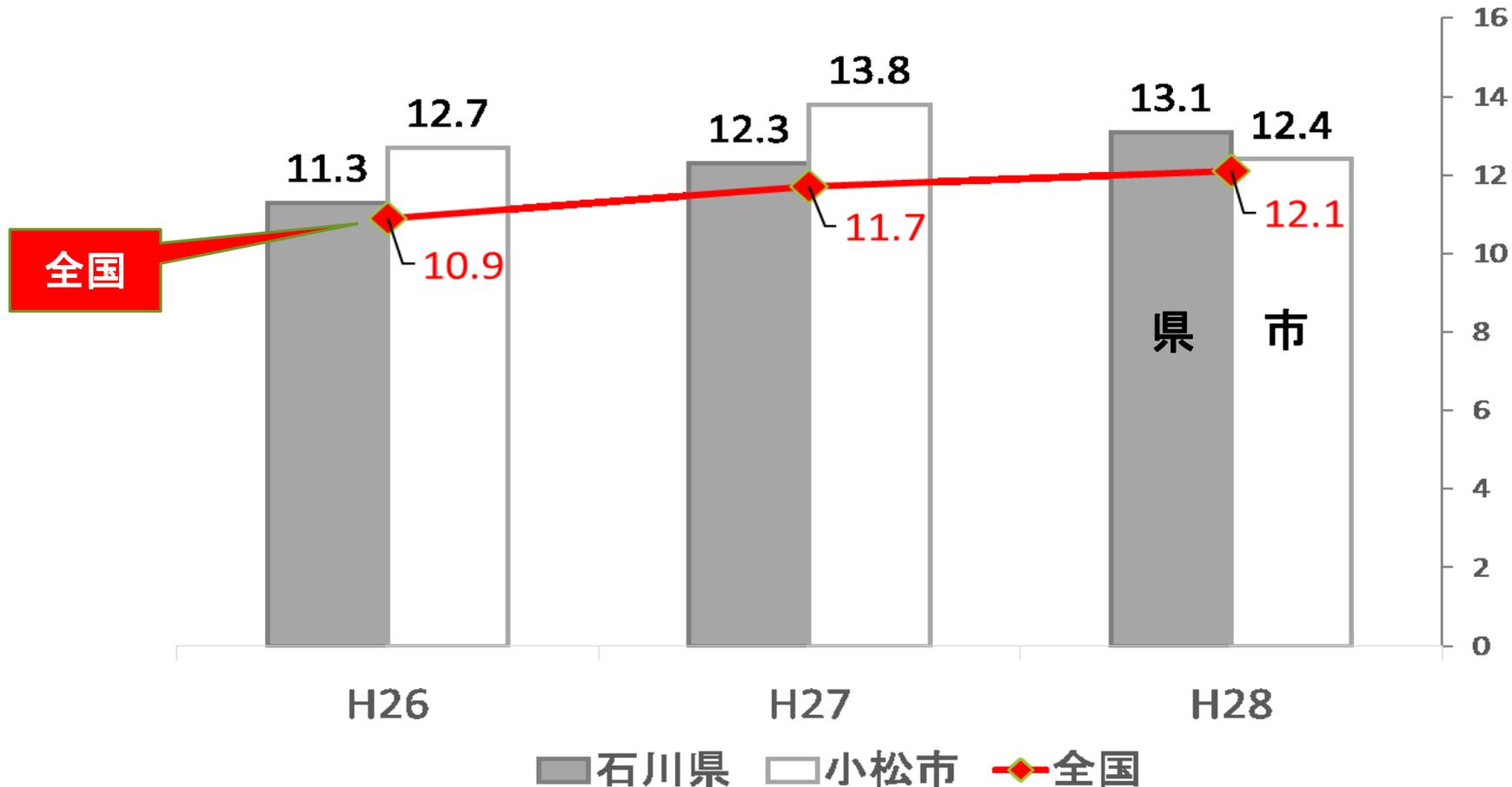
なかなか子どもと遊ぶ時
間がとれないので、自分
にとっても心地よい時間
となっている。

先生にとっても安
らぐ時間だと思う。

保健室登校は今年度
はゼロになった。

1,000人当たりの不登校児童生徒数

(不登校 → 年間30日以上欠席)



月10日以上欠席の児童生徒数

月平均 H27(54人)→H28(48人)→H29(45人)

